

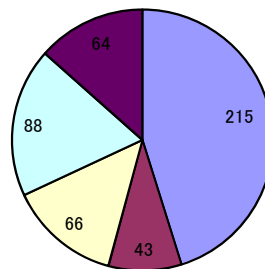
景気動向

業況はわずかに改善。
先行きは製造業でわずかに悪化、非製造業でわずかに改善の見通し。

- 調査時点 平成22年7月調査(平成22年6月末時点)
- 対象企業 740社
- 回答企業 476社(回答率:64.3%)
(製造業215社、建設業43社、卸売業66社、
小売業88社、サービス業64社)
- 調査時期 四半期毎(3, 6, 9, 12月末時点)

DI(Diffusion Index)値とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値。

回答企業	
製造業	215
建設業	43
卸売業	66
小売業	88
サービス業	64



- 製造業
- 建設業
- 卸売業
- 小売業
- サービス業

<全産業>

全産業の業況DI(▲20.8)は、前回(▲26.7)に比べてわずかに5.9ポイント改善した。業種別では製造業の業況DI(+3.7)は、前回(▲6.0)と比べて9.7ポイント改善し、平成16年8月調査以来、約6年ぶりにプラスに転じた。

サービス業の業況DIも前回に比べてわずかに改善を示したが、建設業、卸売業、小売業の業況DIは横ばいを示した。

各業種からは、「過去35年間で最悪の状況である」といった声や「受注状況は良くなったが、先行き不透明で設備投資に踏み込めない」という声があった。

3か月先見通しは、製造業でわずかに悪化を見通しているのに対し、非製造業はわずかに改善を見通している。

■全産業の主要4項目DI値

	業況	売上	採算	資金繰り
6月末時点	-20.8	-22.2	-25.9	-17.9
3月末時点	-26.7	-28.3	-30.5	-20.4
前回比	5.9	6.1	4.6	2.5

■全産業の業況

業況	6月末時点	3月末時点
良化	21.0	19.8
悪化	41.8	46.5
DI値	-20.8	-26.7
前回比	5.9	27.0

■6月末時点からみた

全産業の業況3か月先の見通し

業況3か月先見通し	
良化	9.0
悪化	30.5
DI値	-21.5

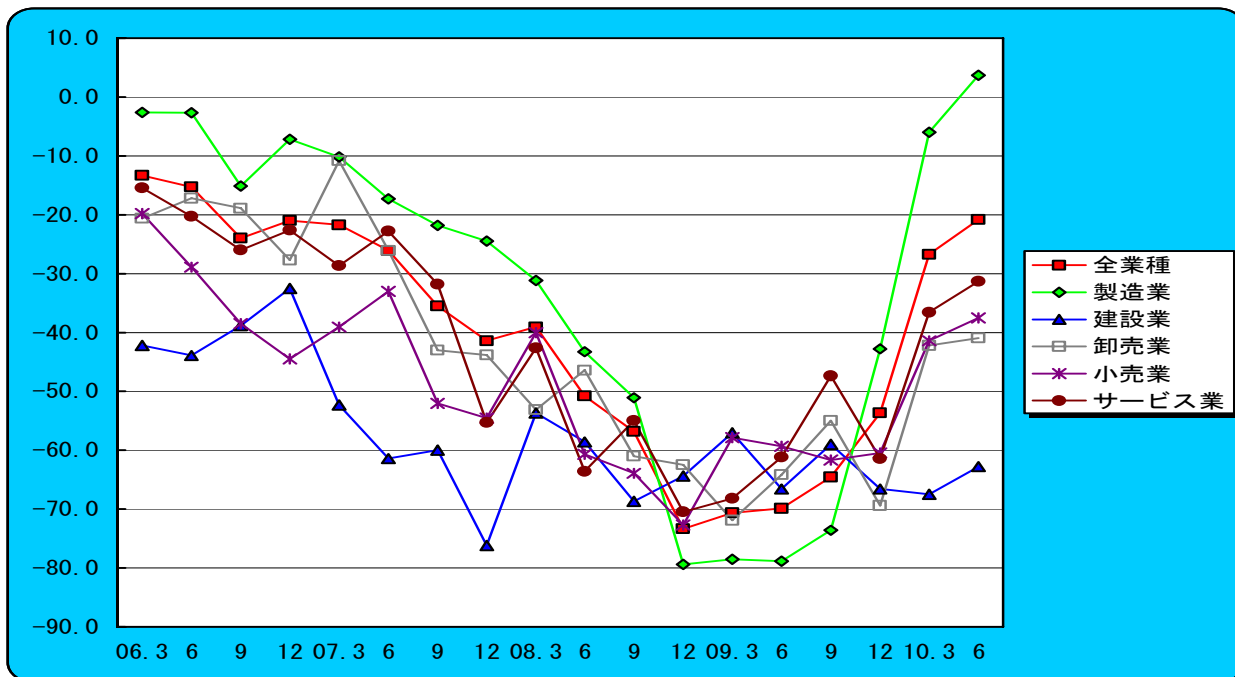
■製造業の業況

業況	6月末時点	3月末時点
良化	37.2	30.7
悪化	33.5	36.7
DI値	3.7	-6.0
前回比	9.7	36.8

■非製造業の業況

業況	6月末時点	3月末時点
良化	7.7	10.4
悪化	48.7	55.0
DI値	-41.0	-44.6
前回比	3.6	19.4

■業種別業況DI値推移グラフ



<製造業>

業況DI値	
今回	3.7
先行き	-12.1
前回比	9.7
対象企業	333
回答企業	215

業況・売上はわずかに改善、採算・資金繰りは横ばいを示した。業種別にみると「織物」「ニット」の業況が大幅改善を示し、「鉄鋼・非鉄」「一般機械」の業況も改善を示した。「酒造」「印刷」の業況は横ばい、「食料品」「電気機器」「輸送用機器」はわずかに悪化、「漆器」は大幅悪化を示した。

3か月先見通しは、業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいてわずかに悪化の見通しを示している。

業種別にみると「縫製」「木材・木製品」「窯業・土石」の業況はわずかに改善を見通しているが、「金属」はわずかに悪化、「一般機械」「電気機器」「精密機器」「プラスチック」は悪化を見通し、「ニット」「鉄鋼・非鉄」「輸送用機器」は大幅悪化を見通している。

「景気回復の兆しが見られない」「中小企業は最悪の状況」「今後も競争が一層厳しくなる」といった声があった。

自由意見

製造業

- 最近、不良債権が多くなってきている。負担ばかり増える。 【食料品】
- 景気改善の兆しが見えてきたという報道がなされているが、一向に感じられない。 【食料品】
- 端境期に入り、市場環境は一段と厳しくなりました。国の給付金でしのいでおりますが、この制度がなくなったら方法はないと思っています。出来るだけ長くこの制度が続いて欲しいです。 【縫製】
- 1ヶ月上がると、また下がる。仕事が安定していない。 【木材・木製品】
- 過去35年間の経験の中で最悪の状況。政府発表による景況感はとても実感できない。 【木材・木製品】
- 上場企業は立ち直っているが、客先によって一律でなく、強弱が激しい。 【窯業・土石】
- 地区において集約化がなされたが、公共事業主体の業界であるため各工場の受注は減少している。建設業からの販売単価の値下げ要望がきつい。又、与信問題にも苦労している。 【窯業・土石】
- 昭和43年以降、仕事を始めて最悪です。 【鉄鋼・非鉄】
- 従業員給料を20%カットして支払い、ボーナスは5年も払っておりません。借入して税金を払っている中小企業も多々あります。 【鉄鋼・非鉄】
- リーマンショック以降、企業の姿勢が経費に対して一層シビアに変化している。今後も競争が一層厳しくなることから悪化の予想をしています。 【金属】
- 4月に値上がりした材料が、7月にまた値上がりするとのお知らせが来た。得意先からはコストダウンの要求があり、仕事増だが利益が出ない状況です。 【金属】
- もう終わりのような感じです。 【金属】
- 受注状況は良くなったが、先行き不透明で設備投資に踏み込めない。 【一般機械】
- 当業界は、仕事の減少に伴い、価格があつて無いような状態です。 【一般機械】
- 製造業の衰退が止まらない。特に、中小企業は最悪の状況である。 【電気機器】
- 景気回復の兆しが見られない。小企業は特に悪化している。 【電気機器】
- 急に受注が増えたが、人員不足により対応に困っている。昨年の過剰人員の苦しい思いがあるので、人員を極力増やしたくないです。 【電気機器】

○受注単価が下がり売上高に影響すると思っていたが、その分台数が増加している。受注数の動向が心配です。

【電気機器】

○今後、素材の値上げがあるため、下期の収益環境は厳しい。

【輸送用機器】

○重油と原料単価の上昇で、資金繰りは厳しい。

【プラスチック】

○まとまった仕事は海外に移行され、国内は材料の値上げ、製品単価のダウン要求など、明るい見通しが無い。

【プラスチック】

<建設業>

業況DI値	
今回	-62.8
先行き	-48.9
前回比	4.7

対象企業	64
回答企業	43

業況・売上・採算は横ばい、資金繰りはわずかに改善を示した。業種別にみると「土木」は業況・売上・採算でわずかに改善、資金繰りも改善を示した。3か月先見通しの業況・売上・採算はわずかに改善、資金繰りはわずかに悪化を見通している。

業種別にみると「土木」「建築」ともに業況・売上でわずかに改善を見通しているが、採算で「土木」が横ばい、「建築」がわずかに改善を見通している。資金繰りでは「土木」でわずかに悪化、「建築」で横ばいを見通している。「資材価格が上がっている」との声があった。

自由意見

建設業

○資材価格が上がっている。

【土木】

<卸売業>

業況DI値	
今回	-40.9
先行き	-22.7
前回比	1.3

対象企業	97
回答企業	66

業況・売上・採算は横ばい、資金繰りはわずかに改善を示した。業種別にみると「衣服」「機械器具」は業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて改善傾向を示した。「青果物」は業況・売上・採算で改善傾向を示したが、資金繰りは横ばいを示した。

3か月先見通しは、売上・採算で改善、業況はわずかに改善、資金繰りは横ばいの見通しを示している。

業種別にみると「飲食料」「建築材料」は業況・売上・採算において改善傾向を見通しているのに対し、「鮮魚」は業況・売上・採算・資金繰りのすべてで悪化を見通している。

「3ヶ月先の見通しは分からない」という声があった。

自由意見

卸売業

○近々廃業します。

【衣服】

○株価も投信も円も早く回復しなければ、皆お手上げ状態になりそう。

【青果物】

○3ヶ月先の見通しは分かりません。

【建築材料】

○住宅着工率、木造公共物件の増加に期待している。国産材の有効利活用にはいかに対応・転換できるかがカギである。

【建築材料】

<小売業>

業況DI値	
今回	-37.5
先行き	-30.7
前回比	3.9

対象企業	146
回答企業	88

売上・資金繰りはわずかに改善を示したが、業況・採算は横ばいを示した。業種別にみると「中小スーパー」「家具・建具」は業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて改善傾向を示し、「大規模店」も売上・採算・資金繰りで大幅改善を示したが「自動車販売」は業況・採算・資金繰りで悪化傾向を示した。

3か月先見通しは、業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいてわずかに改善を見通している。

業種別にみると「飲食料」は業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて改善傾向を見通し、「衣料」も業況・売上・採算で改善傾向を見通している。「家電品」は

売上・資金繰りでわずかに改善を見通しているが、業況は横ばい、採算はわずかに悪化を見通している。

「不況で客足が遠のき売上は最低」「価格競争が更に厳しい」「大・中規模店の販売競争の激化と通信販売等の台頭により、小規模店は激減の一途」という声があった。

自由意見

小売業

○不況で客足が遠のき、売上は最低です。	【中小スーパー】
○小売業界は、大・中規模店の販売競争の激化と通信販売等の台頭により、小規模店は激減の一途です。	【衣料】
○卸問屋より大型店の方が格安な商品は、大型店からの仕入に頼るものもある。	【飲食料】
○大手スーパーの競争が激しすぎる。前年と比べて客が来なくなった。	【飲食料】
○これからお中元の時期を迎えますが、毎年ずっと数量・金額ともに減少の一途をたどっている。うんざりです。	【飲食料】
○価格競争が更に厳しい。量販店の低価格はひどい。	【家電品】
○弊社は有料立体駐車場を主業としていますが、周辺に続々と有料駐車場が乱立し、価格競争に入っています。類のないアイデアで、収益増をしたいと日夜頭を悩ませています。	【家電品】
○建設業全般に言える事だが、決して良い環境にはない。ただし、昨年よりは良い方向にあるかなという感はある。	【家電品】
○国の補助金制度の効果が大きいにあった。	【自動車販売】
○補助金制度が9月までで終了するため、それ以降の動向が心配です。	【自動車販売】
○中古車販売業界は、車の需要が中古車から新車へ移行し、販売が近年になく減少しており、相当苦しんでいるのが実情である。	【自動車販売】
○零細資本ながら永年存続することに試行錯誤してきたが、じっとしては何も始まらない。危機感を持ち続けたい。	【家具・建具】
○全体的に良くならないと、一個人の企業ではどうしようもない。	【家具・建具】

<サービス業>

業況DI値	
今回	-31.3
先行き	-20.4
前回比	5.3

対象企業	100
回答企業	64

業況・売上・採算はわずかに改善を示し、資金繰りは横ばいを示した。
業種別にみると「タクシー」「情報サービス」は、業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて改善傾向を示したのに対し「運送」は、業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて悪化傾向を示した。「観光旅館」は資金繰りでわずかに改善を示したものの、業況・売上ではわずかに悪化を示した。「自動車整備」は業況・売上・採算で横ばい、資金繰りはわずかに悪化を示した。

3か月先見通しの業況・売上はわずかに改善を見通し、採算・資金繰りは横ばいを見通している。

業種別にみると「観光旅館」「タクシー」「運送」は業況・売上・採算において改善傾向を見通しているのに対し、「自動車整備」は業況・売上・採算で悪化傾向を見通している。「情報サービス」は、業況・採算で悪化傾向を見通しているのに対し、売上・資金繰りは改善傾向を見通している。

「先の明るい話が全く見えて来ない」「集客が悪化している」「若干の持ち直しを感じるが、先行きが不透明」という声があった。

自由意見

サービス業

○先の明るい話が全く見えて来ません。同業者の廃業・倒産などが相次いでいます。何ともなりません。	【旅館・ホテル】
○会津の観光地は、集客が悪化している。	【旅館・ホテル】
○前年6月同期比売上半減。7月も売上50%減。	【旅館・ホテル】
○軽油価格の高騰が見られ、今後の不安材料である。	【運送】
○入札が原価以下で、諸費用をどれだけ減らすか1円単位の競争になってきました。	【自動車整備】
○来年7月までは、地デジ関係の工事が増加する。	【情報サービス】
○若干の持ち直しを感じますが、先行が不透明で、やはり当面は慎重な対応をせざるをえない状況です。	【情報サービス】
○デフレ傾向はこのまま続くと思われる。大手のリストラは加速しているがマインドは冷えている。	【情報サービス】